

しかし、雑然とした部屋の様子やS子を責めるような母親の様子から、どれだけ真剣に考え、かわわってくれているのか、少し不安でもあった。

### 学級にとけこむS子

5月の初め、学級づくりの一環として、「ふれあいの時間」に、ゲームを取り入れた。

「他己紹介」——輪になって隣同士で3分間話し合ってから、互いに紹介し合うゲーム。友達のE子の隣に席を選んだS子は、E子から「趣味は、マンガを描いたり、折り紙をすることです。保健係では、やさしく下級生のめんどうをみています」といった紹介をしてもらい、うれしそうだった。

「人間知恵の輪」——6人一組になって必ず違う人の手を握る。そして、絡み合った手を解いて一つの輪にするというゲーム。初めは遠慮していたS子も、やがて、声を出しながら、友達とつないだ手の間をくぐったり、またいだりしていた。

男女一緒ということ、しぶしぶやっている児童もいたが「おもしろかった。今度は僕がゲームを考えてくるから。」という声も聞かれた。この様子を見た担任は、S子のためにも、月に一度ぐらいは計画していきたいと考えた。

### 不登校への心配

5月26日、22才になるS子の長兄が死亡した。誰よりも可愛がってくれていた長兄の死は、S子にとって大きな衝撃であり、悲しみであった。

忌引の休みの後、下痢、腹痛等を理由に5日間休みが続いた。担任が家庭訪問をすると、

母親「具合は良くなったようです。息子が死んで、私も本当にショックでした。先生、S子は、慕っていた兄の死に対するショックが大きかったです。でも、明日からは学校に行くと思います。」

担任「これから、お母さん大変ですね。S子さんのことで何かありましたら、私に相談してください。」

次の日、S子はがんばって登校した。しかし、表情は暗く、ほとんど話はしなかった。長兄の死をきっかけとする情緒不安によって、「不登校」に至るのではないかという心配があった。

### (5) 新たな資料から (6月)

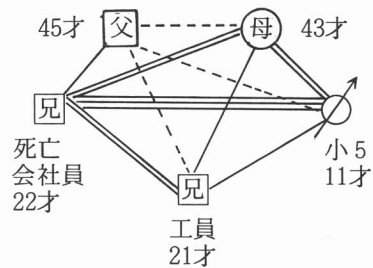
#### ① S子の生育歴

○父親は一年の大半、出稼ぎしており、家族との接触はほとんどない。

○母親は、夜間、飲食店勤務で、家事が手薄になり、S子の生活リズムは不規則であった。

○2人の兄とは年が離れているので、一人っ子のように育てられた。長男はよくめんどうを見てくれていた。

#### ○家族システム・力動図



#### ② 参観日の面談

○母親は幼児期から放任的な養育態度であり、最近、S子をしかることが多い。

○S子は朝起きが悪く、また、家庭学習を全くしない。最近、親への口答えも増えてきた。

#### ③ ソシオメトリック・テスト (男22, 女19)

○相互選択 (女2) 相互排斥 (男4)

被選択 3 (女3) 被排斥 8 (男6, 女2)

#### (6) 二次予測診断

新たな資料を含めて、一次予測診断を次のように補足修正した。

父親が不在がちな中で、母親はS子をかわいがって育てたが、その養育態度は、甘やかしと放任と気まぐれなしっ責の混じり合ったものであった。そのため、S子の生活態度には、わがままさと甘え、情緒的な不安と内向性が見られる。

また、家庭での学習習慣が全く図られなかったため、基礎的な学力に乏しく、寂しさと食事の不規則さによる間食のため肥満気味である。これらがS子の劣等感や自信のなさとなり、学級内での孤立化や男子のからかいの原因になっている。

突然の兄の死に衝撃を受け、情緒的に不安定な状態になっていることもあり、もし、適切な予防